

## 中学校歌唱共通教材の歌詞の定型詩構造に関する一考察 ～「君が代」も含めて～

The fixed-form verse structure in the lyrics in the textbooks commonly used at junior high school  
—Including the national anthem "Kimigayo"—

木 暮 朋 佳

キーワード：中学校歌唱共通教材、君が代、定型詩、短歌調、七五調、六五調、八五調、七調、五調

### 1. はじめに

中学校歌唱共通教材曲と「君が代」は小学校歌唱共通教材曲と同様に西洋的な手法による和声やリズムそして楽器などを使って学習することが一般的であるが、それ以上に日本の音楽システムや楽器などを使って演奏される必要があると考える。それは素朴に日本語による日本の歌だからである。しかし、さらに論理的に音楽と日本語などの観点から、これらの曲がどれだけ日本的であるのか、日本の伝統文化と共通要素を持っているのかを明らかにできれば、その説得力はさらに力をもつと考える。

そこで、本研究では拙論文<sup>1)</sup>の小学校歌唱共通教材曲に引き続き、七五調に代表される歌詞の字数の配列のしかたについて中学校歌唱共通教材曲と君が代を分析することで、さらに深くこの命題に迫ることとする。

ここでは、その配列のしかたを定型詩構造と呼ぶ。

### 2. 研究の対象

本研究の対象である現行中学校歌唱共通教材<sup>2)</sup>は、小学校歌唱共通教材のような文部省唱歌として成立した歌やわらべうたなどではなく、作詞者や作曲者が確定した、西洋音楽のリートを目標の一つとする日本の歌と考えられる。したがって、その旋律や歌詞は確定したものであり、わらべうたや日本の伝統音楽の一部の特徴である無名性も少ないと考えられる。しかし、中学校歌唱共通教材曲は、たくさんの表現媒体やマスコミを通じて流布され<sup>3)</sup>、すでにたくさんの有名無名

の表現者を生み、人々に広く歌われていることも事実であり、その意味で小学校歌唱共通教材曲と同様な存在であるとも考えられる。尚、君が代の歌詞は古今和歌集に初出する読み人知らずの和歌である。

### 3. 先行研究の検討

小学校歌唱共通教材曲の音楽的な分析に関しては、拙論文<sup>4)</sup>で、これらの曲が、陽音階、陰音階、四七抜き音階、二四抜き音階、四抜き音階といった日本音階又はそれに近い音階であるか、「ふじ山」や「冬げしき」などのように長音階でも四七（ $7\text{A}$ と $シ$ ）の使用頻度が少ない四七抜き音階に近いものであることを柴田南雄の分析法を使って明らかにした。ここでは、すべての小学校歌唱共通教材曲が日本音階もしくはその影響を受けたものであると結論している。このことは中学校歌唱共通教材曲でも言えると考えられ、検証の必要性がある。また、本論のテーマである歌詞の定型詩構造に関しては、拙論文<sup>5)</sup>で、小学校歌唱共通教材曲は七五調などの定型詩かその影響を受けた歌詞の構造でできていると分析し結論している。

### 4. 研究の目的

中学校歌唱共通教材曲と君が代の歌詞がどの定型詩で、どの程度、その定型詩の構造を踏まえているのかを明らかにすることを本論の主な目的とする。

このことを明らかにするのは、定型詩という日本語の字数の繰り返し構造が自由詩と比して日本で古くから根付いているからである。つまり、日本の伝統とし

てこのことは定着しており、中学校歌唱共通教材曲を演奏する場合の伴奏の形態と唱法や表現の工夫をする際に日本的である一つの論拠となるからである。そこで、それを視覚化する為に、定型詩と自由詩を双極として、個々の曲の位置を図表化して表すことも試みる。

## 5. 研究の方法

拙論文での認識と同様に<sup>6)</sup>、まず、伝統的な定型詩の種類とその字数の構造を確認する。その上で、個々の中学校歌唱教材曲の字数構造にあたる。そして、その定型詩の種別と新たな字数構造を持つものがあるかを確かめる。さらにその新たな字数構造のタイプとすでに存在する定型詩の字数構成の差の絶対値から距離を位置づけ、新たなタイプも含めた最も近い定型詩からの字数のズレを数値化する。その上で最終的に、その絶対値の大小によって伝統的な定型詩からの距離を表すことにする。

なお、8音や4音を基礎とするモーラの考え方が定型詩を音読化する場合に存在するが、その概念には立ち入らないので、混同を避けるために音数という用語は使わず、ここでは字数という用語で仮名にした時の音数を指すことにする。

### 5. 1 伝統的な定型詩構造について

伝統的な定型詩は以下のようなものである。

長歌→5, 7, 5, 7, 5, 7, (3回以上) 7  
 反歌・短歌→5, 7, 5, 7, 7  
 俳句→5, 7, 5  
 都々逸→7, 7, 7, 5  
 七五調→7, 5, 7, 5, 7, 5～  
 五七調→5, 7, 5, 7, 5, 7～

### 5. 2 ヲレの数値化

ユレの数値化にあたっては、字余りを「+」で、字足らずを「-」で表す。続く数値で曲全体の「字足らず」又は「字余り」の字数の合計を表す。

## 6. 中学校歌唱教材の定型詩構造

### 6. 1 分析

#### 1) 赤とんぼ (1年) 八五調 ヲレ指数-2

1. ゆうやけこやけの (8) あかとんぼ (5)

おわれてみたのは (8) いつのひか (5)

2. やまのはたけの (7) くわのみを (5)

こかごにつんだは (8) まぼろしか (5)

3. じゅうごでねえやは (8) よめにいき (5)

おさとのたよりも (8) たえはてた (5)

4. ゆうやけこやけの (8) あかとんぼ (5)

とまっているよ (7) さおのさき (5)

#### 2) 荒城の月 (2・3年上) 七五調 ヲレ指数±0

1. はるこうろうの (7) はなのえん (5)

めぐるさかずき (7) かげさして (5)

ちよのまつがえ (7) わけいでし (5)

むかしのひかり (7) いまいずこ (5)

2. あきじんえいの (7) しろものいろ (5)

なきゆくかりの (7) かずみせて (5)

ううるつるぎに (7) てりそいし (5)

むかしのひかり (7) いまいずこ (5)

3. いまこうじょうの (7) よわのつき (5)

かわらぬひかり (7) たがためぞ (5)

かきにのこるは (7) ただかずら (5)

まつにうとうは (7) ただあらし (5)

4. てんじょうかげは (7) かわらねど (5)

えいこはうつる (7) よのすがた (5)

うつさんとてか (7) いまもなお (5)

ああこうじょうの (7) よわのつき (5)

#### 3) 早春賦 (2・3年下) 七調+七五調

ユレ指数+2

3行までなら 七調+都々逸調 ヲレ指数-1

1. はるはなのみの (7) かぜのさむさや (7)

たにのうぐいす (7) うたはおもえど (7)

ときにあらずと (7) こえもたてず (6)

ときにあらずと (7) こえもたてず (6)

2. こおりとけさり (7) あしはつのぐむ (7)

さてはときぞと (7) おもうあやにく (7)

きょうもきのうも (7) ゆきのそら (5)

きょうもきのうも (7) ゆきのそら (5)

3. はるときかねば (7) しらでありしを (7)

きけばせかるる (7) むねのおもいを (7)

いかにせよとの (7) このごろか (5)

- いかにせよとの (7) このごろか (5)
- 4) 夏の思い出 (1年) 六五調 ユレ指数+18-1
1. なつがくれば (6) おもいだす (5)  
 はるかなおぜ (6) とおいそら (5)  
 きりのなかに (6) うかびくる (5)  
 やさしいかげ (6) ののこみち (5)  
 みずばしょうのはなが (9) さいている (5)  
 ゆめみてさいている (9) みずのほとり (6)  
 しゃくなげいろに (7) たそがれる (5)  
 はるかなおぜ (6) とおいそら (5)
  2. なつがくれば (6) おもいだす (5)  
 はるかなおぜ (6) ののたびよ (5)  
 はなのなかに (6) そよそよと (5)  
 ゆれゆれる (5) うきしまよ (5)  
 みずばしょうのはなが (9) におっている (6)  
 ゆめみてにおっている (10) みずのほとり (6)  
 まなこつぶれば (7) なつかしい (5)  
 はるかなおぜ (6) とおいそら (5)
- 5) 花 (2・3年下) 七五調 ユレ指数±0
1. はるのうららの (7) すみだがわ (5)  
 のぼりくだりの (7) ふなびとが (5)  
 かいのしづくも (7) はなとちる (5)  
 ながめをなにに (7) たとうべき (5)
  2. みずやあけぼの (7) つゆあびて (5)  
 われにもいう (7) さくらぎを (5)  
 みずやゆうぐれ (7) てをのべて (5)  
 われさしまねく (7) あおやぎを (5)
  3. にしきおりなす (7) ちょうていに (5)  
 くるればのぼる (7) おぼろづき (5)  
 げにいっこくも (7) せんきんの (5)  
 ながめをなにに (7) たとうべき (5)
- 6) 花の街 (2・3年下) 五調+七調 ユレ指数+9-1
1. なないろの (5) たにをこえて (6)  
 ながれていく (6) かぜのりぼん (6)  
 わになって (5) わになって (5)  
 かけていったよ (7)  
 はるよはるよと (7) かけていったよ (7)
  2. うつくしい (5) うみをみたよ (6)

- あふれていた (6) はなのまちよ (6)  
 わになって (5) わになって (5)  
 おどっていたよ (7)  
 はるよはるよと (7) おどっていたよ (7)
3. すみれいろ (5) してたまどで (6)  
 ないていたよ (6) まちのかどで (6)  
 わになって (5) わになって (5)  
 はるのゆうぐれ (7)  
 ひとりさびしく (7) ないていたよ (6)
- 7) 浜辺の歌 (2・3年上) 七五調+六調  
 ユレ指数±0
1. あしたはまべを (7) さまよえば (5)  
 むかしのことぞ (7) しのぼるる (5)  
 かぜのおとよ (6) くものさまよ (6)  
 よするなみも (6) かいのいろも (6)
  2. ゆうべはまべを (7) もとおれば (5)  
 むかしのひとぞ (7) しのぼるる (5)  
 よするなみよ (6) かえすなみよ (6)  
 つきのいろも (6) ほしのかげも (6)
- 8) 君が代 (全学年) 短歌調 ユレ指数+1
- きみがよは (5) ちよにやちよに (7)  
 さざれいしの (6) いわおとなりて (7)  
 こけのむすまで (7)

## 6. 2 分析結果

各曲の字数構造を調べた結果は表1に示す。その特徴として以下のことが挙げられる。まず、伝統的な定型詩としては破格な字数ではあるが、一定の字数の組み合わせの繰り返しによるものが中学校歌唱共通教材でも幾種類か確認できた。全体を単独の字数で繰り返すものはないが、早春賦は前半が七調で後半が七五調である。また、花の街は後半が七調で、前半はユレも大きく確定しにくいのが五調もしくは六調と考えられる。2つの字数を繰り返すものとしては、七五調の変形として六五調と八五調が1曲ずつあったが、小学校歌唱共通教材にある八六調や六四調はない。七五調は滝廉太郎作曲の荒城の月と花であるが、五七調は小学校歌唱共通教材と同様に全くない。花の街は5字、6字、7字のまとまりが均質に同じ字数の繰り返しも含みな

がら散らばっており、一定の字数の繰り返しを持たない乱調にも近いと考えられるが、五調+七調もしくは六調+七調が妥当であろう。ここでは、便宜的に五調+七調とした。

尚、君が代は1字余りの短歌で、短歌調とした。まとめ直すと表2のようになる。

表2 「調別の所属曲目」 \*印は君が代を含む

調	曲名 & 学年	計	%	*%
短歌調	君が代(小中全学年)	1	/	12.5
六五調	夏の思い出(1年)	1	14.3	12.5
七五調	荒城の月(2・3年上) 花(2・3年下)	2	28.6	25.0
八五調	赤とんぼ(1年)	1	14.3	12.5
七調+ 七五調	早春賦(2・3年下)	1	14.3	12.5
七五調+ 六調	浜辺の歌(2・3年上)	1	14.3	12.5
五調+ 七調	花の街(2・3年下)	1	14.3	12.5

### 6. 3 考察

伝統的な定型詩は、短歌調の君が代を除いた中学校歌唱共通教材としては七五調だけであったが、2例あり、君が代を入れた全体の4分の1、入れないで3割弱を占める。サンプルとなる曲数が少ないわけだが、七五調は中学校歌唱共通教材にあっても最も有力な存在である。これは伝統的な日本の音楽にも時代を越えて広く存在しているが、ここでも最も日本的な定型詩であると言えよう。また、七五調に類似した新たな定型詩として、七五調と一字違いの六五調と八五調が1例ずつあった。これは「壺ズレ七五調<sup>7)</sup>」であり、七五調の大きなまとまりとしてとらえることができる。七五調を半分程度含む早春賦と浜辺の歌を含めて七五調に近いものは6曲となり、七五調の大きなグループに4分の3の曲が属している。これは君が代を含めての割合だが、そうでなければ8割5分とその占める割合はさらに高くなる。

一方、拙論文<sup>8)</sup>では単独の字数の7字又は5字を繰

り返す七調と五調を新たな定型詩とし、これらを「単字数調」と名付けた。今回、早春賦の前半が七調であり、花の街は前半が五調、後半が七調となり、部分的ではあるが、七調も五調もその存在があると考えられる。また、浜辺の歌では後半が六調であり、花の街も六調+七調とも分析できるので、単字数調には、七調と五調だけではなく六調の存在も部分的にはあると言えるだろう。しかし、六調の字数自体は伝統的な定型詩にある7字や5字ではないので、伝統的な定型詩からの距離を考える場合には、七調や五調よりは遠い位置と考えられる。尚、都々逸調もしくは五留七調および式ズレ七五調は中学校歌唱共通教材には全体としても部分的にもその存在は確認できなかった。

小学校歌唱共通教材のわらべうたのように歌詞に流動性を持つものはないと考えられるが、口語の夏の思い出と花の街はユレ指数が大きく、語調を特定しにくいと考えられる。夏の思い出の場合は特定の2箇所(2番歌詞の同位置を含めれば4箇所)だけが大きく字余りであり、それ以外は六五調の語調を基本的に保持している。しかし、花の街はユレ指数が夏の思い出より低いにもかかわらず、5字、6字、7字の字数の配列が不規則であり乱調に近いと見えることは上にも述べたことである。

以上の考察の上に立ち、中学校歌唱共通教材曲の伝統的な定型詩からの距離を表す表を表3として作成し、参考として小学校歌唱共通教材曲も含めた形で表4も作成した。これは表の下に行くほど伝統的な要素が薄くなるわけだが、定型構造のない最下層の欄以外はかなり伝統的な色合いが強く、実際にはこの表の上に集中する形になると考えられる。

拙論文<sup>9)</sup>では六五調や八五調のような「新たな定型詩」があることを明らかにしたが、これらを含めると、今回扱ったすべての曲が定型詩という日本の伝統的な手法に影響を受けた歌詞の作り方でできていることがわかった。中学校歌唱共通教材曲および君が代は定型詩かその影響を受けた歌詞の構造でできているのである。それは、古今集から短歌や俳句そしてそれを使った能や歌舞伎等へと続く日本に一貫する共通要素であ

る。能ではこれらの定型詩を平ノリ、中ノリ、大ノリなどの配字法<sup>10)</sup>にあてはめて旋律のリズムを決定したり、歌舞伎では七五調の定型詩を「渡りゼリフ」と称して独特の抑揚法で語るようなシステムも確立している。また、そこにあてはまる大小鼓や太鼓や笛、歌舞伎では三味線などに、それをさらに彩る仕組が用意されているが、それは手組と言われるリズムパターンやアシライや合方などと呼ばれている。したがって、中学校歌唱共通教材曲はこのような様々な日本の音楽システムを使用したり、それとともにある楽器で伴奏されることで、定型詩という日本的な歌詞の作り方でつくられた作品と響応することができるのである。

その音楽授業への応用の仕方については拙論文で述べている<sup>11)</sup>。

## 7. おわりに

日本の音楽文化は世界一歴史が長く豊かで多様である。しかし、その素晴らしい特徴は十分には今に生かされていない。輸入音楽であった雅楽が平安時代に国風化した様に、日本人のアイデンティティを音楽文化の上でどう取り戻すかが今日の一番の課題である。その方向がどこであるかは未知数であるが、少なくとも中学校歌唱共通教材と「君が代」そして拙論文<sup>12)</sup>で明らかにした小学校歌唱共通教材は日本的な要素を持ち、日本の音楽システムと響応できる曲の構造を持って待ち構えているのである。音楽教育は、こうした糸口を参考に、様々な方法と実践で、日本のアイデンティティを確立すべく、これからの日本の音楽をさらに豊かに発展させていく使命がある。

## 註

- 1) 木暮朋佳『小学校歌唱共通教材の歌詞の定型詩構造に関する一考察』美作大学・美作大学短期大学部紀要第56号2011年
- 2) 前改訂で歌唱共通教材がなくなったが現行の平成20年の改訂で復活した。曲目は本文に明らかである。
- 3) 戦前は教科書や「赤い鳥」などの雑誌、戦後はラジオやテレビの放送やCD等の音声媒体も加わる。

「花の街」は作曲者出演のテレビ番組主題歌であった。

- 4) 木暮朋佳『小学校歌唱共通教材の日本音階に関する一考察～柴田南雄の分析法を中心に用いて～』美作大学・美作大学短期大学部紀要第54号2009年
- 5) 木暮朋佳『小学校歌唱共通教材の歌詞の定型詩構造に関する一考察』美作大学・美作大学短期大学部紀要第56号2011年 pp.72
- 6) 木暮朋佳『小学校歌唱共通教材の歌詞の定型詩構造に関する一考察』美作大学・美作大学短期大学部紀要第56号2011年 pp.66
- 7) 伝統的な七五調に対して、六五調や八五調のように1字少なかったり多かったりするものをこう名付けている。木暮朋佳『小学校歌唱共通教材の歌詞の定型詩構造に関する一考察』美作大学・美作大学短期大学部紀要第56号2011年 pp.69-71
- 8) 木暮朋佳『小学校歌唱共通教材の歌詞の定型詩構造に関する一考察』美作大学・美作大学短期大学部紀要第56号2011年 pp.71
- 9) 木暮朋佳『小学校歌唱共通教材の歌詞の定型詩構造に関する一考察』美作大学・美作大学短期大学部紀要第56号2011年 pp.69-71
- 10) 有拍の謡では八拍子（やつびょうし）で音楽の進行を示すが、何拍目の裏から定型詩のはじめの字をはじめ、次の字は何拍目の表に当てて謡うというようにどこの拍に字を当てるのかがおおよそ決まっている。その方法を配字法と言うが、本文にある平ノリなどの3つの定型のリズムパターンがある。
- 11) 「三味線や三線や琴といった楽器で、ベタづけや合いの手、装飾音を伴ったヘテロフォニックな手法や日本の伝統的な音楽の様々な種目の慣用句も挿入して演奏されることで、一つ一つの歌が新たな魅力を放つてくると考えられる。また、リズムパターンも能楽や歌舞伎の囃子等に様々な伝統的なものがあるので、それらを使うととても豊かな表現になるはずである。歌詞に直接関わる唱法の点でも、日本の伝統音楽の様々な種目のコブシな



どの装飾的な歌い方で、その表現はさらに生き生きと変化することができるのである。そして、これらの経験を積むと、すでに存在する伝統的な曲目自体にも直接的に親近感をもたらすことも可能なのである。」 木暮朋佳『小学校歌唱共通教材の歌詞の定型詩構造に関する一考察』美作大学・美作大学短期大学部紀要第56号2011年 pp.72

12) 木暮朋佳『小学校歌唱共通教材の日本音階に関する一考察～柴田南雄の分析法を中心に用いて～』美作大学・美作大学短期大学部紀要第54号2009年 pp.52-53 並びに木暮朋佳『小学校歌唱共通教材の歌詞の定型詩構造に関する一考察』美作大学・美作大学短期大学部紀要第56号2011年 pp.69-72

表1 「曲目別の調とそのユレ指数」 学年は平成23年度教育芸術社教科書による

曲名	学年	調	ユレ指数	備考
1) 赤とんぼ	1年	八五調	-2	
2) 荒城の月	2・3年上	七五調	±0	
3) 早春賦	2・3年下	七調+七五調	+2	上3行なら 七調+都々逸調 ヌレ指数-1
4) 夏の思い出	1年	六五調	+18-1	
5) 花	2・3年下	七五調	±0	
6) 花の街	2・3年下	五調+七調	+9-1	六調+七調 ヌレ指数-10 又は乱調とも
7) 浜辺の歌	2・3年上	七五調+六調	±0	七五調 ヌレ指数+4-4 とも
8) 君が代	小・中全学年	短歌調	+1	

表3 「伝統的な定型詩からの距離」～中学校歌唱共通教材+君が代～

調		曲名 (学年)			定型詩 伝統的 日本的 ↑	
短歌調 (ユレ1)		君が代 (小中全学年)				↑
七五調	七五調 (ユレなし)	荒城の月 (2・3年上)		花 (2・3年下)		
	七五調 (ユレ1以上)	該当なし				
	七調+七五調	早春賦 (2・3年下)				
	七五調+六調	浜辺の歌 (2・3年上)				
老ズレ七五調	六五調 (ユレ1.9)	夏の思い出 (1年)	五留七調	七調+都々逸調	該当なし	新たな定型 ↓
				八五調 (ユレ2)	赤とんぼ (1年)	
	六四調	該当なし	単字数調	五調	該当なし	
				六調	(浜辺の歌～後半)	
八六調	五調+七調 (ユレ1.0)			花の街 (2・3年下)		
	乱調			該当なし		
乱調	定型構造のないもの	該当なし	西洋的 革新的 自由詩			

表4 「伝統的な定型詩からの距離」～小・中学校歌唱共通教材+君が代～ (太字は君が代と中学校歌唱共通教材である)

調		曲名 (学年)				
短歌調 (ユレ1)		<b>君が代(小・中全学年)</b>			定型詩 伝統的 日本的 ↑	
七五調	七五調 (ユレなし)	うみ (1年)、ふじ山 (3年)、まきばの朝 (4年) こいのぼり (5年)、われは海の子 (6年) <b>荒城の月(中2・3年上)、花(中2・3年下)</b>				
	七五調 (ユレ2以下)	夕やけこやけ (2年)、越天楽今様 (6年)				
	七五調 (ユレ3以下)	虫のこえ (2年)				
	七五調+八調+五調	とんび (4年)				
	七調+七五調	<b>早春賦(中2・3年下)</b>				
	七五調+六調	<b>浜辺の歌(中2・3年上)</b>				
巻 ズ レ 七 五 調	六五調 (ユレ2)	冬げしき (5年)	五 留 七 調	七調+都々逸調 (ユレなし)	茶つみ (3年) もみじ (4年)	新 た な 定 型  ↓
	同 (ユレ3)	かくれんぼ (2年)		七調+都々逸調 (ユレ2)	さくらさくら (4年)	
	同 (ユレ1.9)	<b>夏の思い出(中1年)</b>				
	八五調 (ユレなし)	かたつわり (1年)	単 字 数 調	七調 (ユレなし)	日のまる (1年) <b>(早春賦～前半)</b> 春の小川 (3年)	
	同 (ユレ2)	<b>赤とんぼ (中1年)</b>		五調 (ユレなし)	春がきた (2年)	
同 (ユレ5)	子もり歌 (5年)	六調	<b>(浜辺の歌～後半)</b>			
式 ズ レ 七 五 調	六四調 (ユレなし)	ふるさと (6年)	五調+七調 (ユレ1.0)	<b>花の街(2・3年下)</b>		
	八六調 (ユレなし)	おぼろ月夜 (6年)				
	同 (ユレ5)	スキーの歌 (5年)				
乱調		ひらいたひらいた (1年) →字数の「大→小」の繰り返しはある。 うさぎ (3年) →都々逸調とも考えられる。			西洋的 革新的	
定型構造のないもの		該当なし			自由詩	